

## タコノアシ *Penthorum chinense* Pursh

### 【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 11。全国的に減少傾向の著しい、低湿地性の植物である。

### 【形態】

多年生草本。茎の基部は地中にあり、数個の走出枝を出す。地上部は直立し、ほとんど分枝せず、高さ 30~80cm、無毛でしばしば淡紅色を帯びる。葉は狭披針形~披針形、長さ 6~11cm、幅 5~12mm、草質、両端は長い鋭尖形となり、辺縁には細鋸歯がある。花期は 8~10 月、茎の先に長さ 4~12cm の枝を数個出し、多数の小さい淡黄白色の花を片側だけに総状につける。花弁はない。果実は直径 6~7mm である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：1 富山 (小林 52799, 1994-7-23)、2 豊根 (小林 53113, 1994-8-9)、15 豊橋北部 (芹沢 81131, 2006-10-14)。西：24 豊田東部 (畑佐武司 102, 1997-8-29)、25 豊田北西部 (畑佐武司 2544, 2001-9-29)、26 豊田南西部 (畑佐武司 103, 1997-8-29)、29 岡崎北部 (千賀俊之 s.n., 2009-9-24)、33 安城 (堀田喜久 4514, 1995-9-2)、35 西尾北部 (芹沢 68774, 1993-10-15)。尾：57b 愛西 (芹沢 76387, 1999-9-18)。

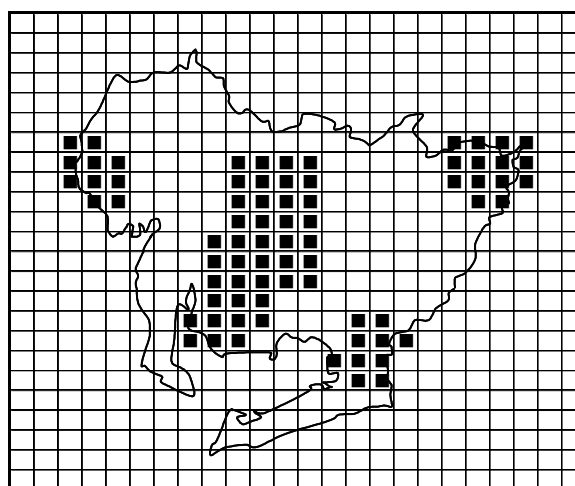
#### 【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球 (奄美大島) に生育する。

#### 【世界の分布】

東アジアに広く分布する。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

河川敷や池沼の周辺などの低湿地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地			○	
水域				

### 【現在の生育状況／減少の要因】

愛知県では矢作川と木曾川の河川敷に比較的多く、生育状況も良好である。しかし、一部の場所では、開発により生育地が失われている。特に木曾川左岸では、河川敷の改修と開発の結果、ほとんど見られなくなった。天竜川は、本来なら愛知県内では本種が生育できるような場所はなかったはずで、確認できたのは佐久間ダム建設の結果できた二次的な地形の場所である。ただし、この場所は最近シカによる食害が著しく、すでに絶滅した可能性もある。

### 【保全上の留意点】

河川敷のヤナギ林やヨシ原は、平野部の本来の自然の姿を残す重要な場所で、本種以外にも多くの絶滅危惧種が生育している。特に注意して保全する必要がある。

### 【特記事項】

タコが逆立ちしたような変わった形の花序をつける植物で、和名もそれによる。花のない時にはややセイタカアワダチソウに似ており、調査時には注意を要する。

### 【関連文献】

保草本Ⅱ p.158, 平草本Ⅱ p.155, 平新版 2 p.230, SOS 旧版 p.56+図版 26, SOS 新版 p.135,137.